

ターゲットを絞ったプロモーション ～インセンティブ旅行セミナー&教育旅行セミナーが開催されました～

2014年1月、シンガポールにおいて日本政府観光局（JNTO）シンガポール事務所が主催する「インセンティブ旅行セミナー」及び「教育旅行セミナー」が開催されました。両セミナーとも2011年の東日本大震災以降初めての開催となりました。当事務所では、シンガポールにおける訪日旅行市場を紹介するため、このセミナーを取材させていただきました。

1. インセンティブ旅行セミナー

1月16日、日本から17団体と地元シンガポールのインセンティブ旅行を扱う旅行関係者や業界紙の担当者など約70名（45団体）が参加しました。インセンティブ旅行で期待される贅沢感や、プレミアム感を演出するため、シンガポールのお洒落な複合商業施設であるチャイムズの大ホールで華やかに行われました。



ステージで挨拶をする JNTO シンガポールの真鍋所長

セミナーでは、JNTOシンガポールの真鍋所長の挨拶のあと、日本からの6団体がプレゼンテーションを行い、「宿泊施設やMICE施設が充実していること、歴史的遺産やショッピング施設が充実していること、伝統文化を体験できること」など、日本の都市部だけではなく、地方においても日本らしい観光資源が豊富であることをアピールしました。

その後の個別商談会では、シンガポールの参加者が日本の出展者のブースを回り、詳しい説明を聞いていました。

セミナー終了後に行われた懇親会では日本食やお酒が振る舞われ、参加者は、和んだ空気の中でPRや情報交換を行いました。



個別ブースでプロモーション・商談を行う様子

セミナーに参加した旅行関係者からは「インセンティブ旅行では特別な体験を求められる。高品質のサービスや美味しい料理に定評がある日本は、インセンティブ旅行の目的地として魅力的である。」「数年前までのインセンティブ旅行の対象は大企業の大人数が中心であったが、現在は大小多様化している。中小規模の施設をもつ地方の情報を収集するいい機会になった。」という声が聞かれました。

インセンティブ旅行セミナーの概要

会期	2014年1月16日(木) 17:00~20:00
開催場所	シンガポールチャイムズ (Chimes Hall)
主催	観光庁/日本政府観光局 (Japan National Tourism Organization)
日本側参加団体 (17団体)	愛知県観光協会、沖縄観光コンベンションビューロー、北九州市、熊本県、静岡県、徳島県、南砺市、北海道観光振興機構、松本観光コンベンション協会、他宿泊施設等の企業8社、
シンガポール側参加団体 (45団体)	旅行会社関係、メディア関係 約70名

2. 教育旅行セミナー

1月17日、サンテック・シンガポール国際会議場において訪日教育旅行セミナーが開催され、日本からは9つの自治体と現地シンガポールの学校教育関係者及び旅行関係者約100名が参加しました。

JNTO シンガポールによる日本での教育旅行の概要説明の後に、訪日旅行の経験のある4名のシンガポールの学校関係者からそれぞれプレゼンテーションが行われ、日本での素晴らしい体験が紹介されました。2013年7月に東京及び東北を学生と訪問した経験を話した大学教授は、教育旅行で最も重要である安全面について、日本の治安の良さや交通インフラの充実ぶりを強調しました。また、2013年12月に北海道を教育旅行で訪れた2人の高校生は「日本での教育旅行は、伝統文化と最先端技術の両方を学ぶことができ、非常に大きな収穫があった。観光資源が豊富であることに加え、日本人の優しさ、ホスピタリティ文化や日本の清潔感に感銘を受けた。」と発表しました。



寿司づくり体験をする参加者



満席の会場で熱心に聞き入る参加者

シンガポールにおける教育旅行は、日本の修学旅行と異なり、クラスやクラブ活動で希望者を募り10名から30名程度で行われるのが一般的です。日本への旅行では、最先端技術施設の視察や日本古来の歴史・文化の体験、日本の学生との交流が求められています。また、シンガポールのように地震や火山噴火のない国の学生にとっては、自然災害について学ぶ機会としても、貴重とのこ

とです。

セミナー終了後の商談会や交流会では、寿司作りと浴衣の体験イベントも企画され、参加者同士による情報交換が活発に行われていました。

参加した教師は「生徒の交流やホームステイをもっと日本で受け入れてもらえるように、この場を利用してネットワークの構築を図りたい。」と話していました。

教育旅行の誘致には、学校や宿泊先の調整等の手間はかかりますが、シンガポールの若い世代に日本のファンを増やすことによって、個人旅行での再訪も期待できるのではないのでしょうか。

教育旅行セミナーの概要

会期	2014年1月17日(金) 16:00~20:30
開催場所	サンテック・シンガポール国際会議場 (Suntec Singapore Convention & Exhibition Center)
主催	観光庁/日本政府観光局 (Japan National Tourism Organization)
日本側参加団体 (9団体)	愛知県観光協会、鹿児島県、北九州市、高知県、熊本県、南砺市、北海道 観光振興機構、松本観光コンベンション協会、
シンガポール側参加団体 (7団体)	旅行会社関係、メディア関係 約 100名

3. 今後に向けての可能性

2013年に日本を訪れたシンガポール人は、円安や放射能汚染懸念の緩和などから、18万9千人(前年比33.1%増)にも上りました。従来の見て回るだけの観光ではなく、体験や学習といった多様なメニューが求められるインセンティブ旅行及び教育旅行に、このシンガポールの旺盛な需要を取り込むためには、一つの自治体だけではなく広域的に旅行者を受け入れる体制を築くことも必要だと感じました。

(宇佐所長補佐 宮崎県派遣)